

肅 啓

久しく高識を慕ふ、未だ拜眉せざるを恨みこす、小生囹圄十年、敢て痛苦ならざりき、苦痛なるは、挫搯に非らずして、書籍の缺乏なりき、實に獄中は、無聊寂寞、故に瞑想と讀書これ爲す而已、眞に獄中は静閑好箇の讀書場也、讀書の獄中味、是れ未知の伺ふ能はざる境地也、邪念、妄想去りて、讀書三昧に入る、薄海萬里、上下三千年、紙上に彷彿たり、獄中の小生は親族、同志の音信、面會より、書籍の差入を唯一の樂しみとせり、是れ入獄者一般の感想、希望也、小生は友人よりの差入書は極めて少かりき、又他の入監者も然るもの、如し、吾人の如き無産者階級は現時の高價なる、良書を求め差入るる事は不可能也、然れども監獄は讀ましむべき所也、讀むべき所也、殊に社會運動家の如き荒れたる生活に没頭する者は獄中に於て靜かに讀書し以つて、其主義、其思想を堅實にし、強固ならしむべし、

今後勞働運動、社會運動に従事する人益々多からん、而してこの犠牲となりて、牢獄に入る人も亦益々多からん、依つて此等犠牲者の爲め、吾社は牢獄文庫を設け、良書を蒐集して貸與せんとす、貴著を獄中にて翫味、精讀するを得ば犠牲者の喜び何ものかこれに過ぎん、又社會の爲め、思想界の爲め、裨益する所も少からず候、誠に恐縮に候ふが吾社の牢獄文庫開設の趣旨を贊助せられ貴著(出來得べくば三部づゝ) 御寄贈被下度此段奉願候 敬 具

東京市外大井町鈴ヶ森磔場隣

新 日 本 建 設 社

牢獄文庫管理人
牢獄文庫主事

福	田	狂	二
新	島	榮	治
柴	尾	與	一
淺	野	吉	次
高	橋	一	郎
中	山	米	藏
山	崎	今	彌
		朝	

殿